

第 4 回

熊本県議会

高速交通ネットワーク整備推進特別委員会会議記録

令和5年12月12日

開 会 中

場所 第 3 委 員 会 室

第4回熊本県議会高速交通ネットワーク整備推進特別委員会会議記録

令和5年12月12日（火曜日）

午前9時59分開議

午前11時6分閉会

本日の会議に付した事件

- (1) 高速交通体系について
- (2) 熊本都市圏交通について
- (3) 付託調査事件の閉会中の継続審査について

出席委員(16人)

委員長 河津修司
副委員長 中村亮彦
委員 前川 收
委員 藤川 隆夫
委員 鎌田 聡
委員 池田 和貴
委員 高木 健次
委員 増永 慎一郎
委員 松村 秀逸
委員 竹崎 和虎
委員 本田 雄三
委員 南部 隼平
委員 堤 泰之
委員 斎藤 陽子
委員 杉 寛ミカ
委員 星野 愛斗

欠席委員(なし)

委員外議員(なし)

説明のため出席した者

企画振興部

部長 富永 隼行
交通政策・統計局長 阪本 清貴
交通政策課長 坂本 弘道
交通政策課空港
アクセス整備推進室長 松村 浩介
土木部

部長 亀崎 直隆
道路都市局長 宮島 哲哉
道路整備課長 奥山 和弘
都市計画課長 松田 龍朋

警察本部

交通部長 原田 聖哉
交通規制課長 山浦 隆之

事務局職員出席者

政務調査課課長補佐 松本 泰明
政務調査課主幹 近藤 隆志

午前9時59分開議

○河津修司委員長 ただいまから第4回高速交通ネットワーク整備推進特別委員会を開催します。

本委員会は、インターネット中継が行われます。委員並びに執行部におかれましては、発言内容が聞き取りやすいように、発言の際にはマイクを自分の口元にしっかり向けて、明瞭に発言いただきますようお願いいたします。

それでは、付託事件の審査に入ります。

まず、富永企画振興部長から総括説明をお願いします。

○富永企画振興部長 おはようございます。

委員会の開会にあたりまして、執行部を代表して御挨拶を申し上げますとともに、本委員会の付託案件の概要について御説明いたします。

まず、高速交通体系に関する件でございます。

高規格道路の整備につきましては、九州中央自動車道の山都中島西インター―山都通潤橋インター間について、国土交通省から来年2月11日に開通することを発表いただきました。また、蘇陽五ヶ瀬道路において、先月26

日に着工式が開催されました。河津委員長をはじめ、御臨席いただきました委員の皆様におかれましては、御多用の中、誠にありがとうございました。

さらに、有明海沿岸道路の長洲町から玉名市間について、今月4日に国土交通省において第1回目の計画段階評価に着手されました。今後も引き続き、高規格道路の早期整備に向けて取り組んでまいります。

次に、国際線の振興についてでございます。

今月、香港航空が週3便で就航し、さらに、チャイナエアラインについても、週2便から週4便に増便されました。これで、国際線は3路線に5社が就航し、合計で週24便が運航中であり、過去最高を記録しています。

今後は、路線の安定運航に向け、関係部局や熊本国際空港株式会社と連携しながら、特にアウトバウンド施策に力を入れるとともに、さらなる航空ネットワークの拡大に努めてまいります。

次に、空港機能の強化についてでございます。

今年10月に策定した新大空港構想の4つの柱の1つに、空港機能の強化を掲げています。今後の方向性としては、路線誘致や運用時間の見直し、国際航空貨物の取扱いに向けた体制構築、空港アクセスの改善等の機能強化に取り組むこととしております。

中でも、TSMCの本格稼働を来年に控え、国際航空貨物の体制構築については、昨年度から積極的に航空会社や関係機関と協議を進めてまいりました。その結果、通関システムの導入など、ソフト面での準備が完了し、阿蘇くまもと空港で国際貨物の取扱いができる環境が整いました。さらに取組を加速させるため、貨物倉庫整備に係る予算を本定例会に提案させていただいております。

次に、熊本都市圏交通に関する件でございます。

熊本都市圏の新たな3つの高規格道路については、住民参加型の道路計画検討を進めるため、先月30日に有識者委員会を開催しました。引き続き、計画の具体化に向けた取組を加速してまいります。

以上、概要を御説明いたしましたが、詳しくは担当課長から説明を申し上げます。御審議のほどよろしくお願いいたします。

○河津修司委員長 それでは、事業概要等の説明を求めた後、質疑を受けたいと思います。

委員会の運営を効率的に行うため、説明は、着座のまま、簡潔にお願いします。

では、執行部から説明をお願いします。

○奥山道路整備課長 道路整備課でございます。よろしくお願いいたします。

お手元の本委員会の資料につきましては、全体で63ページとなっております、変更した箇所を中心に御説明いたします。

なお、変更部分につきましては、資料にアンダーラインを引いておりますので、よろしくお願いいたします。

それでは、資料の7ページをお願いします。

九州中央自動車道についてでございます。

現状の欄をお願いします。

1つ目の丸の3ポツ目ですが、山都中島西インター―山都通潤橋インター間の10.4キロメートルにつきまして、国土交通省から、来年2月11日に開通することが発表されております。

この開通により、嘉島から山都間の約23キロメートルがつながることとなります。

2つ目の丸の3ポツ目ですが、令和2年度に事業化されました蘇陽五ヶ瀬道路につきましては、先月26日に、山都町役場蘇陽支所において着工式が開催され、本区間の工事が開始されました。河津委員長はじめ御出席いた

いただきました皆様におかれましては、御対応いただき、誠にありがとうございました。

13ページをお願いいたします。

中九州横断道路でございます。

現状の欄をお願いします。

2つ目の丸の4ポツ目ですが、大津熊本道路のうち、大津西一合志間につきましては、都市計画変更の手続を行っているところでございます。

17ページをお願いいたします。

有明海沿岸道路です。

現状の欄をお願いします。

2つ目の丸の1ポツ目ですが、長洲町一玉名市間につきましては、今月4日に、国土交通省において、事業化の前提となる計画段階評価に着手されております。

続きまして、21ページをお願いいたします。

熊本都市圏の新たな高規格道路です。

今後の取組の欄でございますが、1つ目の丸の2ポツ目ですが、「都市計画・交通」など様々な分野における有識者で構成する委員会を設置し、先月30日に初の有識者委員会を開催しております。

これまでの検討状況を共有するとともに、委員会の今後の進め方等について議論を行っております。引き続き、計画の具体化に向けて取組を進めてまいります。

23ページをお願いいたします。

(3)の建設促進活動です。

各路線の要望活動を記載しております。

9月の本委員会以降の主な活動内容について御説明いたします。

まず初めに、①九州中央自動車道です。

10月19日に、熊本、宮崎両県の協議会として熊本県副知事、宮崎県知事、副議長、民間経済団体の皆様と、財務省、国土交通省及び自民党本部に対し提言活動を行っております。

11月2日に、東京において、熊本県、県議会、九州横断道路建設促進議員連盟、九州中央自動車道建設促進期成会合同によります建設促進大会を開催し、国土交通省、県選出国會議員に対し要望活動を行っております。

御出席いただきました皆様におかれましては、早朝から誠にありがとうございました。

来年1月26日には、九州中央3県議員連盟の総会がホテル熊本テルサで予定されております。

24ページをお願いします。

南九州西回り自動車道です。

10月10日から11日にかけて、熊本県建設促進期成会の会長である水俣市長のほか、沿線首長、県議会議員により、財務省、国土交通省及び県選出国會議員に対し要望活動が行われております。

10月24日には、熊本、鹿児島両県期成会、議員連盟により、九州地方整備局に対し要望活動を行っております。

11月8日に、熊本、鹿児島両県期成会、議員連盟による建設促進大会を開催し、財務省、国土交通省、県選出国會議員に対し要望活動を行っております。

25ページをお願いいたします。

中九州横断道路でございます。

10月31日に、期成会会長である合志市長のほか、沿線首長により熊本河川国道事務所にに対し要望活動が行われております。

10月1日、2日に、熊本、大分の両県期成会の会長、副会長である阿蘇市長、合志市長、竹田市長のほか、沿線首長により、九州地方整備局及び財務省、国土交通省、県選出国會議員に対し要望活動が行われております。

26ページをお願いいたします。

11月13日に、熊本、大分両県の協議会として、両県知事を筆頭に、副議長、民間経済団体の皆様と、財務省、国土交通省及び県選出国會議員に対し提言活動を行っております。

来年1月26日に行われる九州中央3県議員連盟の総会につきましては、九州中央自動車道と同様となります。

④の熊本天草幹線道路です。

10月21日に、天草市民センターにおいて、熊本天草幹線道路の早期完成を求める天草島民集会が開催されております。

27ページをお願いします。

⑤の有明海沿岸道路です。

10月3日、4日に、荒尾・玉名地域の期成会により、九州地方整備局、財務省、国土交通省及び県選出国會議員に対し要望活動が行われております。

11月14日に、東京において、熊本県、県議会、有明海沿岸インフラ整備3県議会連絡会議熊本県議員連盟、有明海沿岸道路建設促進熊本県期成会合同により、本道路としては初となる建設促進大会を開催し、国土交通省、県選出国會議員に対し要望活動を行っております。御出席いただきました皆様におかれましては、誠にありがとうございました。

⑥の熊本都市圏3連絡道路です。

11月13日から14日にかけて、知事、熊本市長、経済界により、国土交通省及び県選出国會議員に対し要望活動を行っております。

28ページをお願いします。

その他国等への要望です。

10月31日から11月2日にかけて、県全体の要望活動として、関係省庁、自民党本部に対し、国の施策等による提案活動を行っております。

29ページをお願いいたします。

最後に、道路整備によるストック効果のPR活動でございます。

一覧表下段の部分ですが、10月28日から11月8日にかけて、熊本県立図書館において、そして11月21日から22日にかけて、グランメッセ熊本において、PR活動を行っております。

以上が建設促進活動となります。

引き続き、県内の道路整備の必要性をしっかりと国に訴えてまいりたいと考えております。

今後も、委員の皆様のお力添えをいただきながら、予算の獲得、各路線の整備推進に向け、取り組んでまいりますので、よろしくお願い申し上げます。

道路整備課は以上でございます。

○坂本交通政策課長 交通政策課でございます。

資料30ページをお願いいたします。

航空路線の利用促進について御説明をいたします。

まず、31ページ上段の表を使いまして、足元の旅客数の状況を御報告申し上げます。

月別の旅客数を記載しております。本年度に入りまして、国内線の利用者につきましては、おおむね月平均25万人程度で推移しており、10月につきましては27万8,900人という数字でございます。

このペースが維持されれば、令和5年度は、国内線で年間300万人を超える見込みでございます。

また、下のほうに国際線を記載しております。1月からのソウル線に加えまして、9月から台北線が就航しております。10月につきましては、約1万8,700人という状況で、11月から香港線も就航しておりますので、年間20万人が視野に入ってくる状況かと見込んでおります。

おめくりをいただきまして、32ページに国内線の利用率等の状況を記載しております。

まず、現在8路線、1日40便就航しておりますが、本年4月から10月までの状況としては、コロナ前の約9割という数字でございます。

表の左側の欄に10月までの利用率、いわゆる搭乗率を記載しておりますが、下段、全体で約70%、東京線、大阪線につきましては、

おおむねコロナ前の搭乗率に戻っているかなという状況でございます。

33ページをお願いいたします。

今後の取組の下段のところに、チャーター便の造成について記載をしておりますが、現在、エア・ドゥ、北海道と協力しながら、2月に千歳―熊本便のチャーター便2往復を就航ということでお客様を募っている状況でございます。

続きまして、34ページをお願いいたします。

国際線の状況でございます。参考－1の表、下段にございますけれども、これに基づいて御説明をいたします。

まず、ソウル線につきましては、ティーウェイ航空が今デリー運航ということで、毎日1便を運航いただいております。

続きまして、台湾線につきましては、9月から、現在スターラックス航空がデリー運航、チャイナエアラインが月、木、金、日の週4便ということで、合計週11便の運航でございます。

続きまして、香港線につきましては、香港航空と香港エクスプレスで、香港航空が火、木、土の週3便、そして香港エクスプレスが水、金、日の週3便ということで、合計週6便という状況でございます。

続きまして、おめくりいただきまして37ページをお願いいたします。

今後の取組の下段でございますけれども、やはり、安定就航の鍵につきましては、アウトバウンドの利用促進と考えております。旅行社あるいはメディアと連携したプロモーションの展開、それから協議会を通じた助成事業等を実施して、アウトバウンドの率の向上に努めているところでございます。

続きまして、38ページをお願いいたします。

航空物流機能の状況につきまして、今後の取組といたしまして、一番下にアンダーライ

ンを引いておりますが、国際航空貨物専用の上屋を緊急整備するための運営会社に対する支援ということで、本議会で補正予算の提案をお願いしております。

今後とも、空港運営会社としっかり情報共有しながら、中長期的な機能強化も含めて、貨物対応の対策を急いでまいります。

それから、おめくりをいただきまして40ページをお願いいたします。

下段のほうにアンダーラインを引いておりますが、これまでの委員会でも御意見をいただいております一般来場者向けの飲食店についてでございます。まずは、スモールスタートではございますが、商業ゾーンの第1号店として、ポーク卵サンドを提供するお店、これが年内、今月の22日に開業されます。

空港運営会社に確認いたしましたその他の店舗についても、できるだけ早い出店を目指して今協議を進めているということでございますので、一般利用者向けのエリア、飲食店等の拡充に努めてまいりよう、空港運営会社と連携をしてまいります。

ここで、別冊をご覧いただきたいと思えます。新大空港構想の概要ということで、2枚の紙を御用意させていただいております。

先ほど部長の御挨拶にもありましたけれども、10月に策定をいたしました新大空港構想の概要について、簡潔に御説明をいたします。

当委員会と地域活力創生特別委員会、両委員会で同じ資料を使用しております。

まず、1ページでございますが、左側に計画期間を記載しております。令和15年度までのおおむね10年間という形で今回新構想を策定しております。

右側に記載のとおり、4つの取組の柱を掲げております。そのうち、当委員会の関連項目といたしましては、①の空港機能の強化、そして③の交通ネットワークの構築、ここが挙げられます。

おめくりをいただきまして、2ページにつきましては、将来像のイメージということで、少し柔らかいタッチの絵で、空港周辺の10年後の将来像というものを記載しております。

具体的な取組の柱につきまして、3ページから記載をしております。

まず、1の空港機能の強化につきましては、赤枠で囲んでおります中、例えば新規路線の誘致、航空貨物の充実、それから運用時間の見直し、アクセス鉄道の整備促進等に取り組むこととしております。

それから、最後のページをおめくりいただきまして、3の交通ネットワークの構築につきましては、高規格道路の整備促進あるいは道路改良、二次交通の充実、それから豊肥本線の輸送力強化、こういったものにも取り組むということで方向性を示しております。

交通政策課については以上でございます。

○松村空港アクセス整備推進室長 交通政策課空港アクセス整備推進室でございます。

本編資料にお戻りいただきまして、45ページをお願いいたします。

(3)の空港アクセスの改善について御説明いたします。

1ページおめくりいただきまして、46ページの主な取組の経過で、直近の動きを御報告いたします。

まず、2つ目の丸ですが、10月31日から11月2日にかけて、国の施策等に関する提案要望活動におきまして、半導体関連産業の集積促進に係る要望といたしまして、最大限の財政支援を求める継続要望を行っております。

次に、3つ目の丸ですが、本日、12日から環境アセスメントに関する配慮書及び都市計画における構想段階評価の公表、住民意見の受付を行うこととしております。

次に、4つ目の丸ですが、県民の理解を深

めるための各種広報活動といたしまして、阿蘇くまもと空港内に、右写真にあります大型広報看板を掲出するなど、機運醸成にも取り組んでいるところでございます。

下の括弧書き、今後の取組をお願いいたします。

1つ目の丸の2ポツ目ですが、路線線形の絞り込みと並行いたしまして、鉄道概略設計調査の一環として、需要予測、収支試算の精査等にも着手することとしております。今定例会におきまして、これに必要な予算を提案しているところでございます。

引き続き、肥後大津ルートの実業化に向けた検討の深度化、JR九州、国との協議にも取り組んでまいりたいと考えております。

空港アクセス整備推進室は以上でございます。

○松田都市計画課長 都市計画課です。

53ページをお願いします。

熊本都市圏総合都市交通体系調査について御説明いたします。

中段のスケジュールでございますが、来年度から取り組む都市交通マスタープランの策定に向けまして、現在、そのための準備として、パーソントリップ調査等を進めているところでございます。

その内容ですが、下から2番目の丸を御覧ください。

10月から11月にかけて、熊本都市圏の5市6町1村の約50万世帯を対象に調査を実施し、現在集計作業を進めているところでございます。

今後は、年度内を目標に集計作業を終え、都市圏の交通現況を把握してまいります。

ページが飛びますが、59ページをお願いします。

5)のパーク・アンド・ライドでございます。一番下の丸になりますが、現在、益城復興事務所、にじいろ駐車場等の駐車場を活用

し、県道熊本高森線沿線から、快速バスを熊本市中心部まで運行する社会実験を、年末にかけて実施しております。

今後は、社会実験から得られた結果を基に、関係機関と連携して、利用拡大に向けた取組を進めてまいります。

都市計画課の説明は以上でございます。

○河津修司委員長 以上で執行部からの説明が終わりまりましたので、質疑に入ります。何かありませんか。

○前川収委員 まずは、各道路関係の話でありますけれども、国において、新しく有明海沿岸道路についても計画段階評価に入っていたということ、非常にたくさんの道路を一遍に一緒にやっている熊本県にとっては、非常にハードルは高かったというふうに思います。その中で、新たな路線が計画段階評価に入ったということは、高く評価したいというふうに思っております。

一方で、国の政策の中で、T S M Cの関連で、総理から戦略分野の事業拠点に必要なインフラ整備については、追加的複数年にかけて安定的に対応できる機動的な仕組みをつくる。新しい交付金のことでありますけれども、このこともいただきまして、恐らく中九州横断道路がここに国の事業としてはまってくるというふうに思っておりますが、中九州横断道路の見通し、これは、国はなかなかかっちりはいいません。先日の県議会の一般質問の中で、高木議員の質問に答える形で、県のほうは、大津植木線の多車線化についての見通しやインターチェンジへのアクセス道路の見通し等々もお話いただいておりますが、核になる中九州の見通しがどうなのか、ぜひ教えていただければと思います。今の予測を、国の話じゃなくても、県がどう考えているかということだけでも分かれば、部長、ぜひ教えていただきたいというふうに思いま

す。まずはこれです。

○亀崎土木部長 見通しということでございます。

今回、中九州横断道路の合志インターチェンジアクセス道路の南側のバイパス区間について、5年ということを出しました。これが、中九州横断道路が開通したときには、それがちゃんとできているということがラストでございますので、我々はそういう気持ちの中で、現時点で最大限予測できる期間として、5年で開通まで持っていこうという気持ちで今回申し上げました。

加えて、今私どもの中では、中九州横断道路が早く進むように、用地買収のほうも、今年度4億円分ということで、用地先行取得を行い、支援をしていくということでございます。順調に用地取得が進んでおり、さらに、来年度も、もう少し上積みをしたところで、用地協力もしていこうというところでございます。

ですから、我々が先ほど5年と言ったのが、どうかということもございますが、国と一体となって、まずは、骨格となる大事な部分、特にJ A S Mの前の6車線道路も含めて、覚悟を持って取り組んでいきたいと思っております。以上です。

○前川収委員 非常に県のほうが頑張って、期限まで含めて、期限というか目標なんでしょうけれども、あと5年で開通するというお話をいただいたことは、とても大きいというふうに思います。

中九州横断道路の合志インターまでがつながっていないのに、インターチェンジへのアクセス道路だけを先に造るというのは、普通に考えれば不自然なわけでありまして、インターチェンジができるから、それがアクセス道路につながるという、そういった社会資本を造っていかなきゃいけないということで私

は少なくとも受け止めております。ぜひそれに間に合うように、みんなで協力しながら、多分、国交省も、これは多分ですよ、国交省もそういう目標は、あまり外れると困るから大きな声じゃ言わないかもしれないけれども、そういう思いは持っていたいていいるものだと想像をしておりますので、ぜひそういったことで取り組んでいただければというふうに思います。よろしくお願いします。

○亀崎土木部長 今5年と申し上げましたが、国も今から用地交渉とかございますので、そこはしっかり協力しながら、一日でも早く、中九州横断道路が開通するようにしっかり支援しながら、我々の足元の部分を、しっかりそこは早く、迅速にできるように、かつ、地権者の方がいらっしゃいますので、そこは丁寧にやっていきたいと考えてございます。以上です。

○前川収委員 ちゃんと国交省との連携を取っていただきながら、よろしくお願いしますと思います。

空港アクセスの件なんですけれども、実は、熊本空港を割と頻繁に使っているものがありますが、さっきの課長の説明でいくと、コロナ前の9割、需要は9割ぐらいは回復したというお話であります。

ただ、第1駐車場は満杯で車が置けない状況がとても頻繁に発生しているんです。何でかなと。私は立体駐車場までできて広くして許容台数は増えていると、数字は知らないけれど、思ってるけれども、なんでそうなっているのか、理由は分かりますか。

○坂本交通政策課長 私どもも、第1駐車場が非常に最近利用が厳しいという状況は聞いております。一つには、太陽光発電のやつをやりくりして、少し台数が一時的に減ったというものはあるんですけれども、ただ、我々

もお話を聞く限り、やはり第2駐車場、第3駐車場、そちらのほうはまだ比較的余裕があるということは空港会社も認識しています、そこを何とか第2駐車場、第3駐車場でも支障がない方はそちらを使っていただけるような工夫ができないかということを空港運営会社のほうで考えていると聞いております。以上でございます。

○前川収委員 基本的に、第2駐車場、第3駐車場もあることはよく知ってますけれども、今の現状でいけば遠いですよ。しかも、天候次第じゃなかなか利用促進というのが難しい。そこはやっぱりしっかり何か考えないと、全体が出来上がれば使えるのかなと思うけれども、貨物用のビルができて、その横を抜けていかなきゃいけない通路の問題もやっぱりしっかり考えないと、なかなか難しいということを特に感じております。ぜひ、長期間車を置く人たち、3日とか4日とか置く人たちには安くしてあげて、そっちを使ってくださいとか、そういうこともちょっと工夫してもらいたいというふうに思いますし、やっぱり圧倒的に車で来る方が多いんですね、熊本空港の特性は。アクセス鉄道がまだできてませんから。やっぱりこの今の駐車場の状態、つまり、コロナ前のピーク時の9割が戻ってきたという状況ですら、もう既に第1駐車場の部分は、立体駐車場まで含めて昔より増えてるんですね、キャパは。立体まで含めれば1,400台ですよ。その分がもう満杯になると。何か特別なことじゃなくて、かなり日常的に満杯になっているというそのことを踏まえた上で、ぜひアクセス鉄道のほうにも力を入れてほしい思ってますが、新しい需要予測も今度予算をかけてなさるということでもありますけれども、変わった部分は何なのかを教えてください。需要予測をし直さなければならぬ変わった部分。

○松村空港アクセス整備推進室長 空港周辺地域におきましては、菊陽町の大型の土地区画整理事業、大津町では駅周辺のまちづくりの基本構想を策定予定と伺っております。

民間でも、ホテル等を中心に非常に活発に動いているということでございます。

さらには、東海大の開校であるとか、広く捉えて、状況が変化しておりますので、こういったものを見込みに漏れなく取り込んで精査をしてまいりたいと考えているところでございます。以上でございます。

○前川収委員 この計画をつくった以前とは随分環境が変わったなというのは、私自身も皆さんもお感じになっていると思いますので、そのことをしっかり取り込みながら、きちんとした需要予測を立てて、その上で早く着工という形でやっていただければと思います。

それから、駐車場は、当面、いろんな工夫をしていただきますよう、これはもう要望で結構ですので、よろしくお願いします。以上です。

○鎌田聡委員 アクセス鉄道に関連して、これからまた需要予測とか収支試算をやっていくということでもありますけれども、先ほどからお話がありましたように、今、コロナ前の9割ぐらい、国内で年間300万人くらいですかね。国際線で20万人くらいで、大体320万人くらいがアップーだったと思いますけれども、これは前から指摘をさせていただきましたように、2051年度に622万人ということがもともとの需要予測の根底になっているんですよね。いろいろな状況を加味して今後やられると思いますけれども、いろいろ状況は変わってはきています。やっぱり、あまりにも現状で、もう少しで到達する320万人の1.8倍ぐらいの622万人という数字はちょっと大き過ぎるんじゃないかなと思っておりますの

で、ぜひその辺も精査をした上で、これから需要予測されるのであれば、しっかりとさせていただいて、もう少し現実的に、これは行けそうだとところを出していただかないと、非常に難しいと思います。そういった622万人を根底とした1日4,900人という利用人数ですから、ちょっとなかなか。これは説得力に欠けますので、もう少しその辺をきちんと、今後されると思いますし、そこは精査をしていただきたいと思いますけれども、そこは変えないのでしょうか。

○松村空港アクセス整備推進室長 航空旅客の目標値につきましては、熊本国際空港株式会社の目標値として、設定をされているものと承知しております。

そこに対しまして、ちょっと見込みが過大ではないかという意見だったと思いますけれども、最近の動きといたしましては、国際航空路線の就航も続いておりますし、先ほど申し上げましたように、コロナ前に国内旅客も戻りつつあるという状況であると思いますので、そういったものを含めて、熊本空港会社とも意見交換をしながら、需要見込みを考えていきたいというふうに考えております。以上でございます。

○鎌田聡委員 もう絶対無理だという話はしませんけれども、やっぱりもう少し説得力のある、誰が見ても、これはいけるよというような数字を基にやっぱり出していただかないと、なかなか皆さんの理解、県民の理解というのは難しいと思いますので、しっかり今後需要予測を立てられるということであるのなら、その辺も含めて対応していただきたいと思います。

それともう1点よろしいですか。

レストランの話がありましたですね。やっと1店オープンするということでもありますけれども、大空港構想と言いながら、ちょっ

とそういった不十分なところは非常に残念であります。今後、どのくらいのスケジュールで、どのくらい入ってくるのでしょうか。

○坂本交通政策課長 商業ゾーンにつきましては、隣にふれあい広場を整備予定であり、もう旧国際線ビルの解体は終わったんですけれども、今順調に工事が進んで、来秋にはオープンという予定で今進めております。

それに合わせまして、今、ターミナルの一番東側にある商業ゾーンについても、飲食店、それから物販、そういったものも含めて、開かれたゾーンに合わせて開店をするということで報告を受けております。

ただ、飲食店につきましては、なるべく早く入っていただけるところについては、どんどん前倒しでやっていきたいという方針を聞いております。以上でございます。

○鎌田聡委員 広場は結局、雨が降ったりした場合にはなかなか利用が難しいと思うんです。やっぱり屋内できちんといろんなものを食べれるところの整備を急いでほしいと思いますし、やっと1号店ということで、ほかにもありますけれども、ぜひ、大空港構想と言われる話が先行しておりますので、それに見合った空港づくりに努力していただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

○高木健次委員 先ほど前川委員のほうからも質問がありましたけれども、空港アクセス鉄道、これは、先般の私の質問で、ルートについて、大津駅から白川を越えて、高遊原台地まで約3キロぐらいは高架式でいくと、そこから先はトンネルで空港までという説明だったと思いますけれども、そこから先が、非常にまだ我々もなかなか分かりにくいというか、トンネルを掘って空港に駅を造ることになると、地上に駅を造るのか、あるいは地下の空間で駅を造るのか、この辺は非常に

に大事なことだろうと思うんですね。

例えば、やっぱり航空法とかなんとかで、鉄道を空港の近くに乗り入れできないというようなことあたりもあるでしょうし、ここに書いてあるとおり、トンネルの中に駅を造るということになれば、地下の駅からエレベーターで上がるのか、エスカレーターで上がるのか。そういうことで、非常に大きな工事になるんだろうというふうにも思っております。

平成30年度にこの計画を立てたときには、大津からの発着での肥後大津ルートで330億円。令和4年度に出てきた予算は410億円、6.8キロ。この予算の変動というのが非常に大きいんですね。ただ、こういういろいろな難工事とか、そういうことを積算、見積りをしていくと、やっぱり、今、最初に出てきた予算から大きく拡大するんだろうというふうに思います。ただ、執行部のほうもいろいろあるでしょうけれども、ある程度その辺もしっかり把握しながら、計画をしながら、この工事はこのくらいかかるということで、大体の金額を出していかないと、ちまちまどんどん上がって、最終的にはこうなりましたよと。計算をして、計画に沿っていくわけですから、違う工事が出てきたときはまた当然上がるのは分かりますけれども、ある程度のしっかりした見積りを持ってやっていかないと、だんだんだんだん値段が。例えば、個人で家を造るときもそうです。うちあたりも、昔は、30坪、40坪が2,000万円とか2,500万円でできたけど、今はもう5,000万円とかするんですね。社会情勢とか社会経済の変化もあるでしょうし、いろいろな状況を見ると、これは10年の計画ですから、10年後完成したときにいくらになるかというのは、ある程度やっぱり県民も、その辺の予測ができるような、そんなに倍もかかったんだというようなことじゃなくして、その辺しっかりと積算をある程度やって、きちんとした金額もあ

る程度示しておかないと、いろいろな、後でちょっと弊害も出るんじゃないのかなと思いますけれども、その辺についてはいかがですか。

○松村空港アクセス整備推進室長 ただいま御質問いただきました駅の位置につきましては、今まさに検討している最中でございまして、これにつきましては、県のほうで計画をするというだけではなく、国のほうとの協議も必要でございしますので、それをどういった形にしていくのかということについては、もうしばらくお待ちいただきたいというところで考えております。

また、事業費の見積り等々につきましては、これも、検討の中で、路線線形の絞り込みと同時に進めているところではございます。

ただ、途中段階の情報を段階的に部分部分でお出ししていくということで、それが県民の過度な期待であったり不安を招くようなことにつながるようではいけないと考えております。路線線形だけではなく、事業費等々もしっかり見積もった上で、全体を御判断いただけるような形で県民の皆様にお示ししていきたいというふうに考えております。以上でございます。

○高木健次委員 言われたとおり、10年計画ですから、途中でいろいろ変更する部分とかいっぱい出てくると思うんですね。ただ、そのときはしっかり、やっぱりある程度の金額を時々示してやっていかないと。いきなりぼんと、何倍も、2倍まではならないかもしれないけれども、だんだん予算が上がるということも、非常に不自然な形だと思いますから、その辺しっかりと頭に入れておいていただきたいというふうに思います。

続けて、委員長、もう1ついいですか。

先ほどの前川委員の質問でも、中九州の間

題が出て、我々も、TSMC関係の近くの道路の今からの工事予想関係を教えていただきましたけれども、菊陽から上がってくる道路の立体交差点、これは3か所できるんですね。TSMCの前は県道大津植木線ですけども、6車線化。インターにアクセスする道路も4車線化。そういうことをもろもろ考えると、非常に土木部のこれからの仕事というのは、莫大な量になるんじゃないのかなというふうに危惧しております。

その辺で、最近、教職員にしろ、県の職員、いろいろ人手不足ですよ。どこも、どの分野も。そこで、土木部のほうはどうなのかなと。1,140億円、10年間で予算はついておりますけれども、やっぱりなかなか、技術者とかいなくて工事ができないとか、計画も立てられない、工事にも進められないということがあったら、非常にこの計画も遅れてくるというか、そういう状況もあるんじゃないのかなと。TSMCはもう来年は開業ということで迫ってますから、一日も早く、そして特に管内は渋滞解消が、もう本当、渋滞、渋滞、渋滞の話なんですよ。ですから、その辺を解消するためにも、土木の技術職員、この辺の、よその分野もそうですけれども、職員不足というのは、どういう状況なのか、よかったらちょっとお聞かせください。

○亀崎土木部長 先般の一般質問で総務部長から答弁がありましたように、やはり今の仕事をしていく中では、非常に人力的には苦しい状況というのは事実でございます。

そういった中で、任期付きの職員であったり、コンサルタントの皆さんからうまく支援していただきながら、今やりくりしているところです。その中でやっぱり一番大事なのは、若い職員さんに入ってきていただくというのが、私が考える今後の土木を支えていく技術者の全体像だというふうに考えております。

その中で、今ありましたように、こういう集中的にやるべきところはやらなければならないし、全体の均衡ある県土づくりという意味では、国土強靱化も進めなければならないということでございます。ここにいる職員、みんなそういう気概を持った職員でございます。そういった中で、これは絶対我々はやっていくぞという気持ちを持って臨んでいるところでございまして、そういった中で、人材を確保するよう取り組んでいこうということで考えております。

人を守るということと、新しい未来をつくるということは、非常に大事なことでございます。そのために、しっかり土木部、頑張っていきたいと思っております。以上です。

○高木健次委員 確かに、総務部長からは、今の現状で何とかいけるというような話だったんですね。ただ、それをずっと継続できるかという、非常に私は心配しておりますので、やっぱりこの事業の早急な完成、継続に向けてもその辺は非常に大事な部分だろうというふうに思っております。これは前川会長、皆さんで、知事を含めて東京に何回も何回も足を運んで1,140億円、とてつもない予算を国からも約束いただいている状況なんですから、そういう予算がついている中で、工事が遅れているとか、進まないということになったら、非常にまた大きな問題かなというふうに思いますので、これはしっかりと、土木技術に関連する職員さんの確保というのは、土木部長含めて、その辺もしっかりやっていただきたいというふうに思っておりますので、よろしくお願いします。

○亀崎土木部長 本当にありがとうございます。魅力ある土木部という観点でいきますと、質問のときに先生からありました総合土木というのも、今若手の中でどうなのかなというのも1つございます。皆さんが希望す

る、土木部に入りたいなど、熊本県の土木部なり、農業土木をやりたいとか、そういう若い職員の皆さんの期待に、いかに我々が応えて、そういう職場環境を確保するかということも大事だと思いますので、そういったことも含めて、新しい人材確保にしっかり取り組んでいきたいと思っております。以上です。

○高木健次委員 ぜひ頑張ってください。

○河津修司委員長 ほかに質問はございませんか。

○池田和貴委員 航空物流の機能の状況で、新たな国際航空貨物の上屋の整備の取組という話がありました。今回補正予算も出されているんですけども、九州がシリコンアイランドとしてやっていくためには、やっぱりこれはどうしてもなければいけないので必要だというふうに思うんですが、それ以外にも、これをやることによって、いろいろそのほかにも波及をすることも可能性として考えられると思うんですね。

今、県とすると、こういった貨物は、こういったものが今後熊本空港として必要になってくるというふうに考えて整備を進めていこうとされているのか、ちょっとそこを教えてくださいませんか。

○坂本交通政策課長 貨物につきましては、池田議員御指摘のとおり、熊本空港、実は、今まで国際航空貨物ができなかったという段階ですので、それをまずは、ソフト面、それから秋にちょこっと置けるようにしたんですけども、それをまずは、しっかりとしたいですか、ある程度の実証レベル以上に耐えられる上屋を整備していこうということで、空港運営会社と今回タッグを組みながらやるというものでございます。

今のところ、我々としても、やはり非常に

J A S M関係での物流の動きが活発ですので、まずは半導体というものはもちろん、それからそれに広がる物流というのは捉えておりますけれども、熊本県というのは、やはり農林水産物という面もございますので、そういった部分も含めまして、熊本の強みを、国際はもとより、国内も含めまして、貨物というものに空港を活用できるような取組ができればと考えております。以上です。

○池田和貴委員 はい、分かりました。これは絶対私も必要だと思いますので、ぜひやっぱり進めていく必要があると思います。

私は、サラリーマン時代の経験から、国際物流とかで、半導体は当時でも結構高価だったので、ほとんどその輸送は航空便を使っていたというのがありますので、今後、やはりその関係からしても、熊本空港にはそういう機能は絶対必要だろうなというふうに思っております。

その予測を立てるときに、これはぜひお願いしたいのは、飛行機の貨物を乗せるスペースをつくるのは、これは航空会社なんですけれども、実際その貨物をお客さんから受けて手配するのは、これはフォワーダーという職種の人たちがいらっしゃるんですね。日本通運さんとか、そういうのが有名なんですけれども。

実は、そこが一番、どういうお客さんが、どこに物を送りたいとか、どういうので困っているかという情報が大体ここに集約してくると思うので、ぜひそのフォワーダーの皆さん方からの意見も参考にしていっていただければというふうに思っております。

ぜひ、空港の貨物機能というのは、これはもう絶対熊本がシリコンアイランドの中心になろうと思ったら、ここは整備していく必要が、もう必須だと思いますので、ぜひそこは進めていただきたいと思います。

これは要望でございます。

○竹崎和虎委員 関連していいですか。

私も9月に航空貨物に関して質問させていただいたところであります。

管外視察で台湾のほうにお邪魔して、航空会社さんともお話ししたときに、航空会社としても、熊本空港のハードの整備であったり、またソフト面も充実させてくださいというお話でありました。

先月、地元紙に、運用時間の変更に関して動きがあっている、運用時間を変更するためにはこれぐらいの年数がかかるという記事が載っていたんですけども、今日そこに関してちょっとお話がなかったものですから、その運用時間の延長に関して、今どういう取組をされて、どういう状況なのか教えていただきたいんですが。

○坂本交通政策課長 運用時間の延長につきましては、先ほど御報告した大空港構想、あるいは有識者会議の中でも、やはり、熊本空港というのが、実は14時間という運用時間でございまして、九州の他空港に比べると1時間短いという状況、これは現実でございます。経済界からの要望もこれまでも受けてまいりました。そこについて何とか運用の見直しはできないかということで、今年度から着手しているところでございます。

条件といたしましては、空港会社による便のニーズ、それから地元の理解、その2つが必要になりますので、一番大事なのは、我々県として汗をかかなければいけないのは地元の御理解と考えておりますので、大空港構想策定後、地元の関係する市町村それから地元の区長様方に、まずは大空港構想で我々はこの考え方を持っているんだということを御説明に入っている段階でございます。

引き続き、そこは、周辺地域の皆様方の御意見も丁寧に伺いながら、何とか運用時間を他空港並みに伸ばせるようにということで今

頑張っている、着手したところでございます。以上です。

○竹崎和虎委員 一番必要な部分だと思います。その運用時間を延長することによって、選ばれる空港となっていくのではないかと考えております。貨物もしかりなんですけれども。

その1時間というのを今念頭に動いてらっしゃる。その1時間というのは、前ですか、後ですか。どんな1時間。

○坂本交通政策課長 そこにつきましては、現時点で、どの時間をどう延長するということを、我々として決めてかかってやっているものではございません。当然航空会社さんのニーズもございますでしょうし、地元の方のお考えもあるので、そこはしっかりと御意見を伺いながら判断していきたいと考えております。以上です。

○竹崎和虎委員 しっかり取り組んでいただければと思いますし、できれば、将来的には24時間飛ばせるような空港になればと思っていますので、よろしくお願いいたします。以上です。

○河津修司委員長 ほかに質疑はありませんか。

○松村秀逸委員 中九州横断道路についてお尋ねいたします。

先ほど、熊本環状連絡道路の部分ですね。下硯川インターから熊本北インターまでの間で都市計画決定に向けて準備を進めていただいていると思いますが、この事業化が大体いつぐらいになるのかの予定を分かれば教えてくださいたいと思います。

○奥山道路整備課長 熊本環状連絡道路につ

きましては、国の計画段階評価が終わっておりまして、我々としても、先ほど建設促進活動のほうでも御報告しましたとおり、早い事業化を国のほうに要望しているところでございます。我々としましては、計画段階評価が完了しているということで、来年度の事業化を要望しているところでございます。

○松村秀逸委員 ありがとうございます。今年度、都市計画決定になって、来年度に向けて進めていただくということでございますけれども、ぜひ一日も早い事業化を地元としても願っております。

それとまた、熊本北インタージャンクションのところの乗り入れ口が決定したということで、本当にありがとうございます。お礼を申し上げます。よろしくお願いします。以上です。

○河津修司委員長 ほかに質疑はございませんか。

○本田雄三委員 今の説明の中で、長期的な展望というのは理解をしているつもりですが、来年、JASMEの運用開始というような状況になり、航空機の利用も増えている状況の中で、暫定的な、空港から大津駅までとか、あるいはJASMEに直結するような輸送手段とか、そういうふうなところというのは、今御予定というか、考えはあるのでありましようか。

○坂本交通政策課長 今の時点で、空港とJASME、セミコンという形での特別な輸送という話は、現時点では検討しておりません。ただ、いずれにしてもJASMEから企業立地課を通じていろいろなお話がありますので、そこは、必要があれば検討、対応してまいりたいと考えております。以上でございます。

○本田雄三委員 通常は、かなりそういう意味では、ビジネス便というか、ビジネスで来られる方は、大半があちらに直接行かれるのではないかなと思いますので、バスにしても、なかなかドライバーが見つからない状況でありますので、早めにそういう部分は検討が必要ではないかと思っております。

あわせて、大津からの分岐ということはもう決まっておりますので、大津駅の機能強化といいますか、そこがかなり交通等の拠点になっていくかと思っておりますので、そこも併せて御検討いただければというふうに思っております。これは要望です。よろしくお願いします。

○河津修司委員長 ほかに質疑はございませんか。ほかに質疑がなければ、これで終了いたします。

次に、議題3、付託調査事件の閉会中の継続審査についてお諮りします。

本委員会に付託の調査事件については、引き続き審査する必要があると認められますので、本委員会を次期定例会まで継続する旨、会議規則第82条の規定に基づき、議長に申し出ることにしてよろしいでしょうか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○河津修司委員長 異議なしと認め、そのようにいたします。

その他として何かありませんか。

○増永慎一郎委員 前のこの委員会で、いわゆる三里木ルートから変わったということで、運動公園の話をしたと思います。そのときに、運動公園に対しては、道路を広げたりとか、バスの横付けのところをやるとか、駐車場を増やしたりとかという話がありましたが、今のところ、どういうふうな状況になっているかお尋ねしたい。

○松村空港アクセス整備推進室長 前回、中間報告といたしまして、実証実験の経過を御報告したところでございます。

その際に、課題として挙げました事柄を、各庁内関係課が持ち帰りまして、今それを、予算議論等を通じて検討しているところでございます。

実際のその対応策等々につきましては、また改めて御報告いたしたいと考えているところでございます。以上でございます。

○増永慎一郎委員 あのとときには、即効性というか、すぐできることはやる、それから、後々考えていかなければいけないことは、状況に応じてやるという話だったんですけれども、いわゆるイベント等はずっとあってるわけですよね。特に、今年はロアッソが天皇杯で結構いいところまでいって、そういった試合のときにも結構大変だったというような話もあるんですけれども、その辺については、何か即効性があるような取組というのは、この前御報告を受けた以外はまだ全然手をつけてないような状況なんですかね。

○松村空港アクセス整備推進室長 前回、ロアッソのイベントの際には、ハード整備が1つの柱、もう一つは、シャトルバスであったりとか、パーク・アンド・ライドというものであったかと思えます。

パーク・アンド・ライド等につきましては、その運行につきまして、主催者側との話も必要でございますので、その対応は、今まさに調整中であると伺っております。以上でございます。

○坂本交通政策課長 前回中間報告をさせていただきました様々な案について、効果があるものについては、基本的にはこれはやっていきたいと。ただ、費用負担の在り方であったり、無駄な出費がないか、そういったもの

はまずは精査して、来年度予算の議論でまさに全庁でやっているところでございます。

あと、中長期的な対策についても、都市計画課、体育保健課と話しながら、当然そこも視野には入れておりますけれども、来年度の予算に向けて、まさに実証の成果として何ができるかということを、今精査している状況でございます。以上です。

○松田都市計画課長 今説明の中にありました一部ですが、都市計画課のほうでは、ハード整備に向けた検討を進めているところでございます。その中で、短中期になろうかと思いますが、今現在、臨時駐車場を利用しながら、不足する駐車場を賄っているところでございますが、何分臨時なものですから、足場が悪かったり、照明が不足していたりというふうな課題が見えてきました。それについては、早急に対処したいと思っております。

それから、全体的な駐車場不足が課題として見えてきておりますので、それについては、新たな駐車場が必要と我々も感じておりますので、今候補地の選定等に向け調査に入っているところでございます。以上でございます。

○増永慎一郎委員 元々は、三里木ルートということで空港アクセスは考えられていたのを、肥後大津ルートに変わりました。そのときに、何でというふうな形でやっぱり県民の皆さん方も思われたと思いますし、特に、その三里木ルートに期待された方々は、大多数がやっぱり運動公園へのアクセスのことを考えられて言われていたというふうに私は認識をしております。

ですから、空港アクセスの件もですし、その運動公園のアクセスの件も、同じような形で考えていかなければいけない問題だというふうに思いますので、この件に関しては、しっかり執行部全庁挙げて、ぜひ取り組んでい

ただきたいというふうにお願い申し上げます。以上です。

○河津修司委員長 そのほか質疑はございませんか。

（「ありません」と呼ぶ者あり）

○河津修司委員長 ないようであれば、本日の委員会はこれで閉会いたします。

午前11時6分閉会

熊本県議会委員会条例第29条第1項の規定によりここに署名する

高速交通ネットワーク整備推進特別委員会委員長